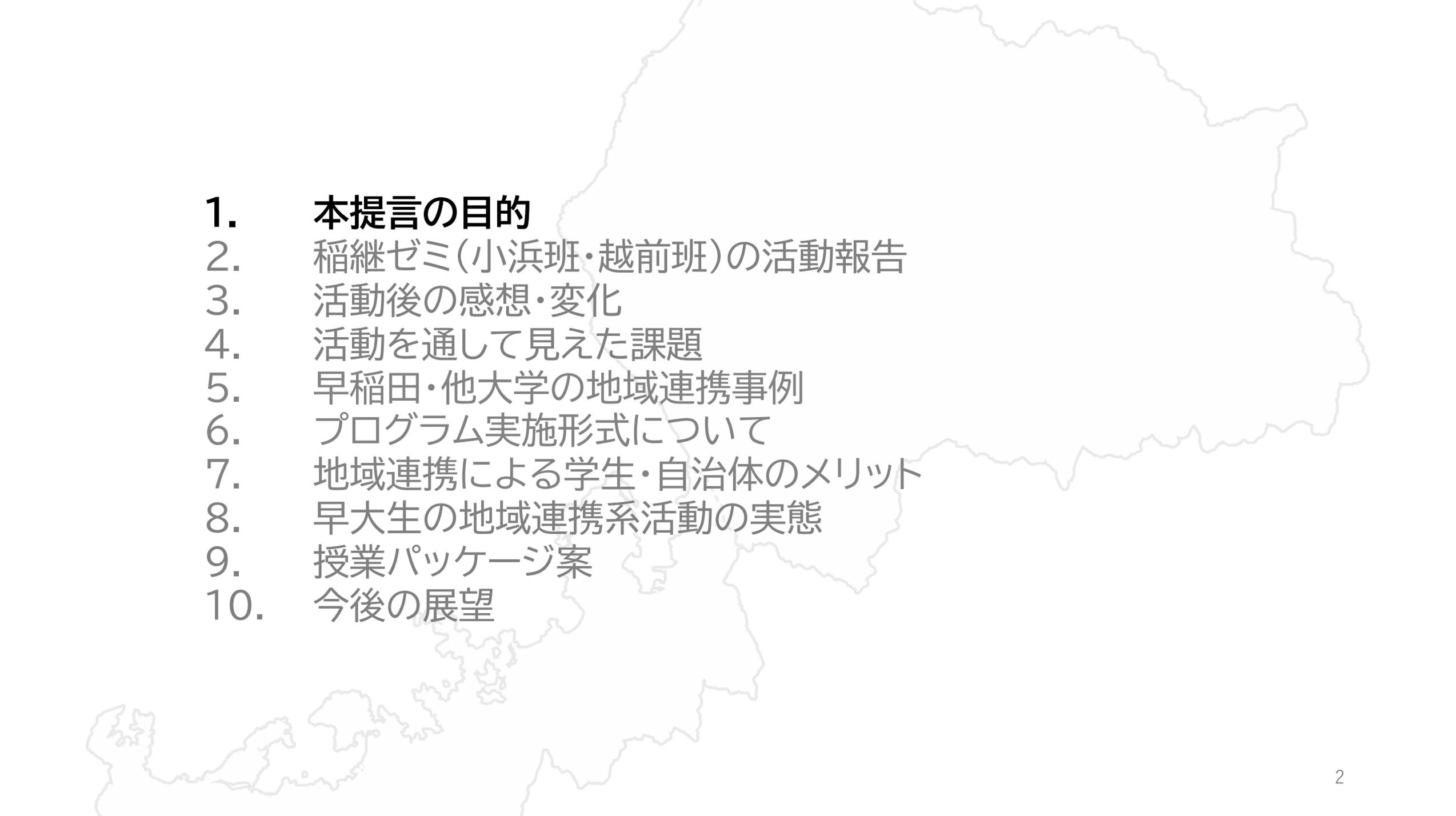


# 「幸福度日本一の福井県で学ぶ！ ウェルビーイングによる地域課題解決実践」 のご提案

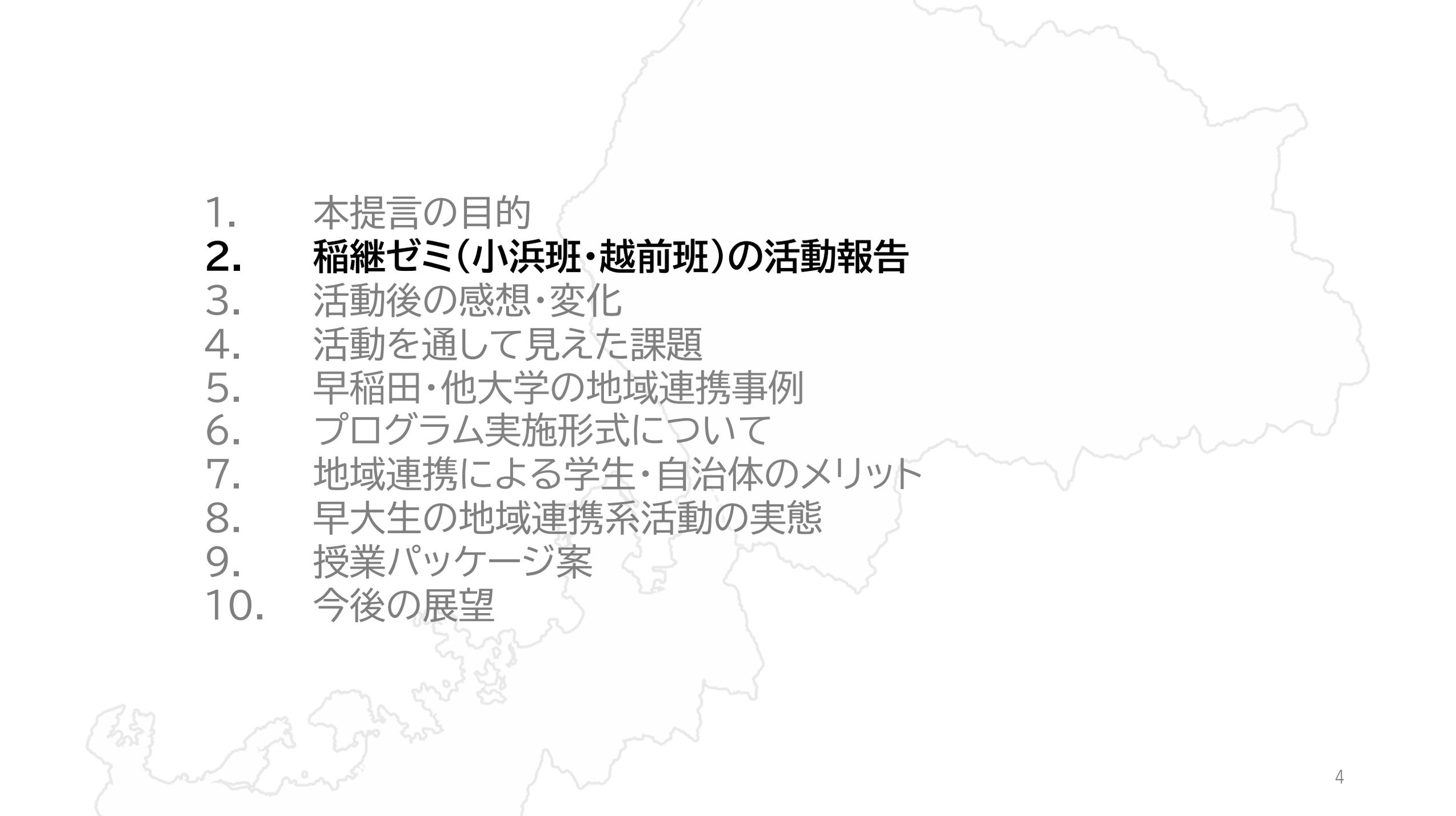
---

早稲田大学政治経済学部 稲継ゼミナール  
高木・武・沼・野地・吉野

- 
1. **本提言の目的**
  2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告
  3. 活動後の感想・変化
  4. 活動を通して見えた課題
  5. 早稲田・他大学の地域連携事例
  6. プログラム実施形式について
  7. 地域連携による学生・自治体のメリット
  8. 早大生の地域連携系活動の実態
  9. 授業パッケージ案
  10. 今後の展望

### ウェルビーイングを武器にした福井型授業モデルの構築

- ・ウェルビーイング政策づくりの実証として、  
1年間福井県越前市・小浜市を舞台に活動をした報告を行い、  
感想や改善点等を述べる
- ・早稲田大学や他大学の地域連携事例、アンケート調査を踏まえ、  
福井型授業モデルに応用できる点を取りまとめる
- ・上記をもとに福井ならではの授業モデルを提案する

- 
1. 本提言の目的
  2. **稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告**
  3. 活動後の感想・変化
  4. 活動を通して見えた課題
  5. 早稲田・他大学の地域連携事例
  6. プログラム実施形式について
  7. 地域連携による学生・自治体のメリット
  8. 早大生の地域連携系活動の実態
  9. 授業パッケージ案
  10. 今後の展望

## 2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告

福井県政策提言は、学生が計4回の訪福を実施して政策を創造したスケジュールの進行と学生の思考イメージは以下の通りである

### 現地調査(FW)10/21

- 自治体及び事業者が抱える課題を把握してそれを言語化する作業
- 事業者に直接インタビューを行う
- 中間報告で自治体が求める政策のニーズを理解する

### 中間報告 11/19

- 担当課の方々からフィードバックをいただくことで洗練された政策づくりを行う
- 各項目における修正事項を担当課の職員の方々に提出していただき、プレゼンの精度を高める
- 中間報告後にフィードバックいただいた項目で詳細な検討が必要な場合には、後日オンラインミーティングを実施

### 最終報告 3/21

- 「実現」させることを最終目的とし 予算化を達成する
- 最終報告の資料は、3/10を仮提出とした上で、各課にフィードバックをいただいた
- 最終報告までに数回事業所にたいしての独自調査やアンケート実施を行い、より幅広い層の意見徴収を行うことを意識した

8/22

1  
Stage

初訪問

2  
Stage

現地調査

3  
Stage

中間報告

4  
Stage

最終報告

## 2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告

福井県政策提言は、越前市班と小浜市班が異なる行程で現地調査を進行した。それぞれの当日スケジュールは以下の通り



## 2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告

福井県政策提言は、越前市班と小浜市班が異なる行程で現地調査を進行した。それぞれの当日スケジュールは以下の通り

09:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
宿泊施設から公用車移動 ●しきぶ温泉湯楽里にて、待ち合わせ。小浜市周辺に宿泊施設が少なく越前市に近い場所にて宿泊		事業所訪問1 ●若狭の恵前野社長	事業所訪問2 ●地域おこし協力隊坂田様 御食国おばま食文化館	昼食	行政ヒアリング ●嶺南振興局若狭企画振興室の多田室長に嶺南地域に関するヒアリングを実施して行政側の意見聴取も実施した	事業所訪問3 ●ブルーパーク阿納河原様	事業所訪問4 ●うちとみキッチン民宿佐助、へしこなど、伝統的な食文化の発信拠点を訪問			

## 2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告

### 学生と自治体の役割分担の棲み分け

行程概要作成

訪問希望事業所の送信

宿泊施設予約

15人以上宿泊可能な施設

質問内容策定

事業所に事前に送信

E-trip申請

交通費用1.5万円を申請



完成版の行程表を納品

ヒアリングの際の会議室

訪問可否の確認

FW同行、公用車運転

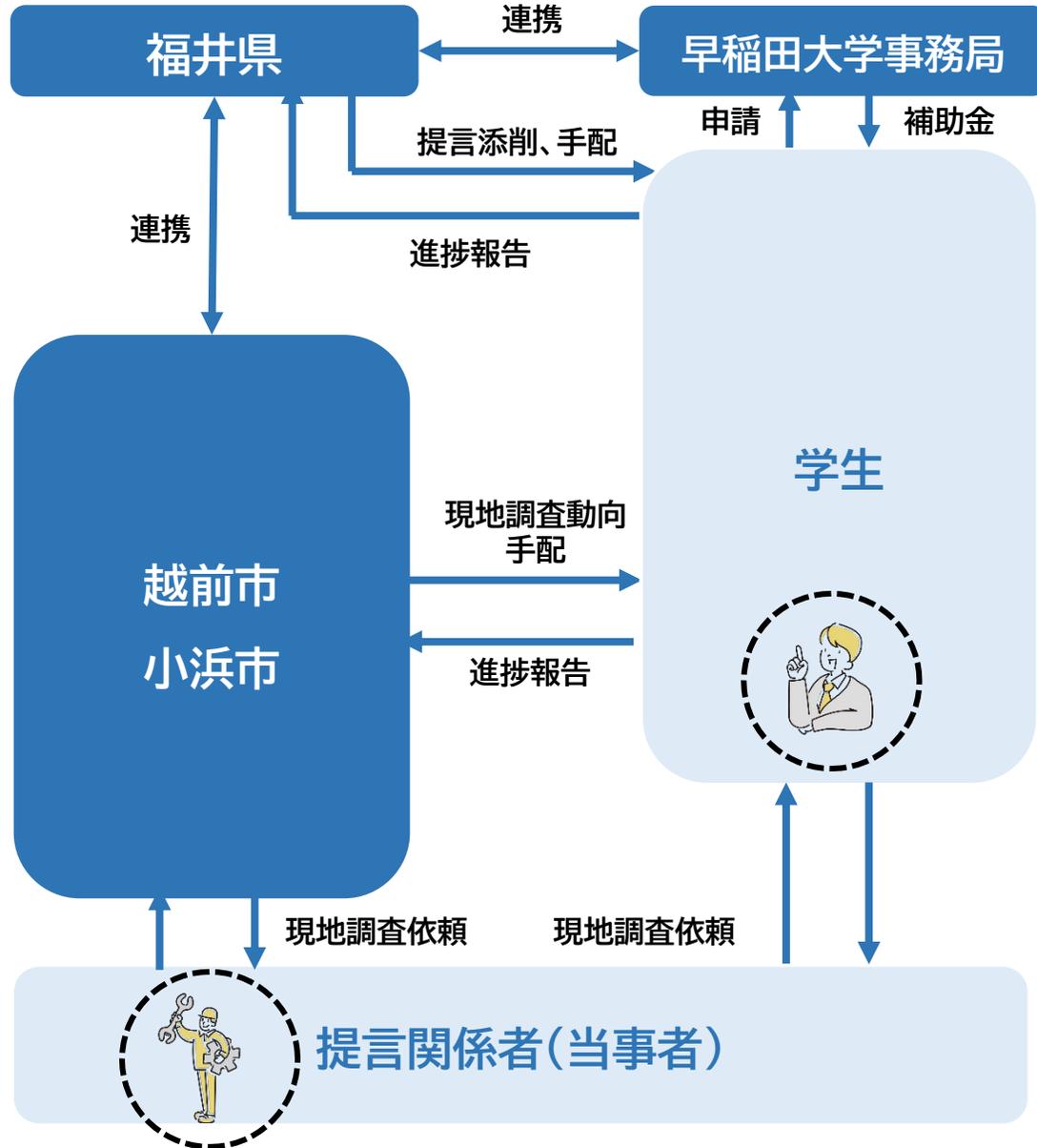
行程表作成

会議室手配

事業所許可どり

FWの補助

## 2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告



### 地域との関わり方

## 伝統工芸職人塾調査における開拓方法

### 1. 行政の支援を通じたヒアリング

福井県庁の飛田さんに、伝統工芸室の県庁職員をおつなぎいただき、伝統工芸職人塾の現地座学調査、三組合とのヒアリングをセッティングしていただいた

### 2. 独自開拓で行うヒアリング

伝統工芸職人塾の実態を塾生の生の声をきくべく、メールや各種SNSで事業所に接触し、一人のヒアリングにつき一人紹介していただいた。数珠つなぎ式で提言関係者(当事者)のヒアリングを行うことでより精度の高い分析が得られた

ただし、学生のみでは取り合っていただけない事例も多くあるため、行政の皆様との協力は不可欠である

1. 本提言の目的
2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告
- 3. 活動後の感想・変化**
4. 活動を通して見えた課題
5. 早稲田・他大学の地域連携事例
6. プログラム実施形式について
7. 地域連携による学生・自治体のメリット
8. 早大生の地域連携系活動の実態
9. 授業パッケージ案
10. 今後の展望

#### 越前市の訪問を通じた感想



伝統的工芸品の個々の生産額や局面が異なり、個々の産地の状況に応じた政策提言の必要性を感じた



現地調査によって、従来学生が分析して設定した課題と、現地の当事者の方々が感じている課題に乖離があり、改めて課題設定の難しさを感じた



はじめて来訪した時は、縁もゆかりもない土地であったが、4回の訪問を通して愛着が形成され、日頃のニュースでも福井県と越前市について興味関心を持つようになった

#### 小浜市の訪問を通じた感想



へしこやなれずしなどの加工技術の継承や、「キッズキッチン」をはじめとした食育の展開など、「御食国」として食に関わる伝統文化を大切にしていると感じた



農林水産に関して先進的な技術を用いることで、小浜の食文化をさらに発展させようとする人が多く、小浜の住民の地元に対する熱い思いを感じた



地域の連帯感を感じると同時に、福井県外の大学生をはじめとする関係人口が少ないため、外部の視点が役に立つと感じた

#### ① 福井県に対する新たな気づきが得られた

- ・訪問自治体の持つ伝統産業や観光資源との出会い、その価値の実感
- ・訪問自治体が重要視する課題の認識

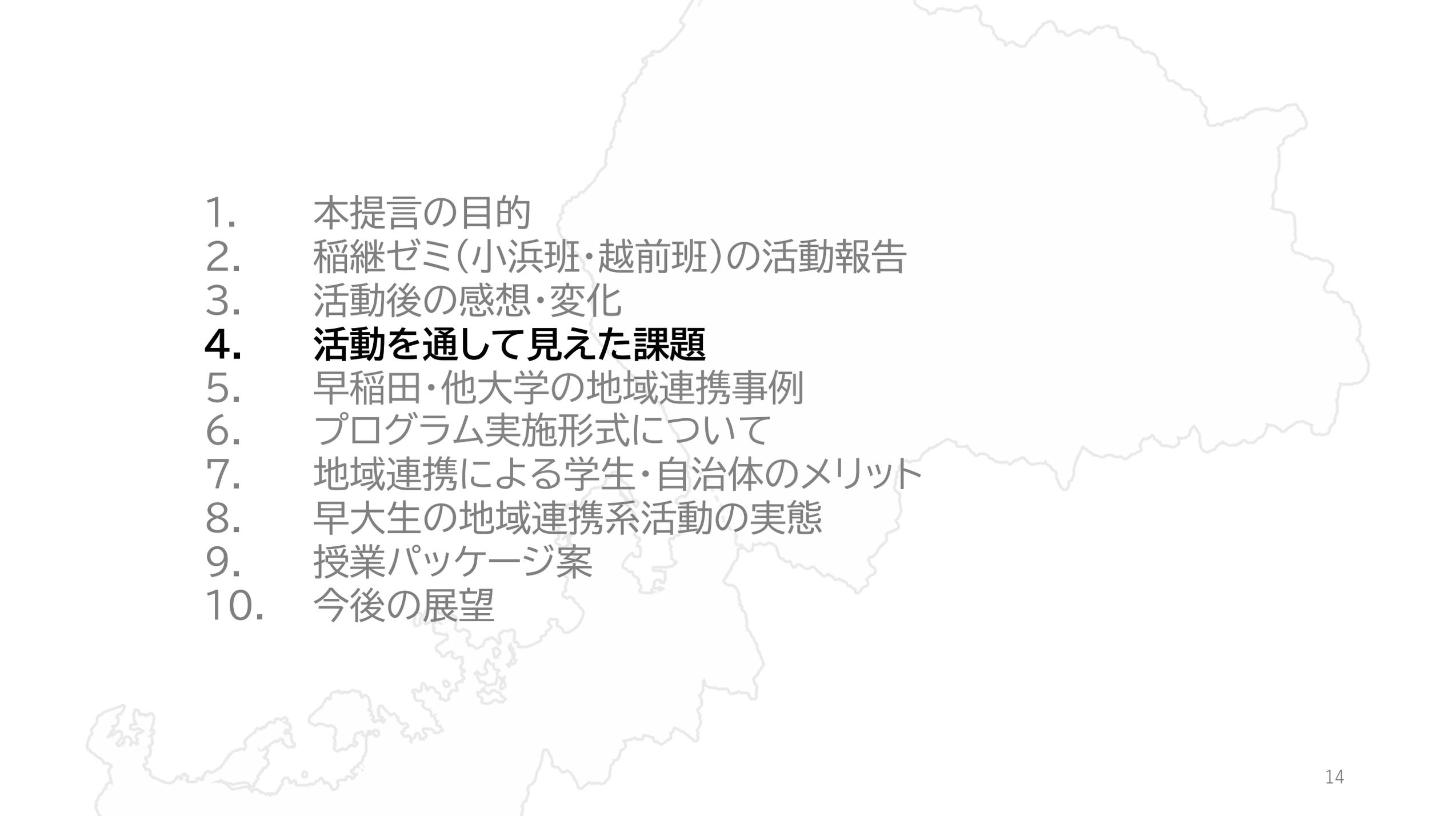
#### ② 課題解決スキルが以前よりも向上した

- ・訪問やヒアリング、そして課題の分析等を通じた  
課題発見力、円滑な議論進行、コミュニケーション能力の向上

#### ③ 自己肯定感・充足感、自己効力感が向上した

- ・都市部の若者という属性を活かして、地域に役立てる部分があることの実感

知見やスキル、そしてマインドにまで良い影響を及ぼしたことを実感。

- 
1. 本提言の目的
  2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告
  3. 活動後の感想・変化
  - 4. 活動を通して見えた課題**
  5. 早稲田・他大学の地域連携事例
  6. プログラム実施形式について
  7. 地域連携による学生・自治体のメリット
  8. 早大生の地域連携系活動の実態
  9. 授業パッケージ案
  10. 今後の展望

## 4.活動を通して見えた課題

### 活動を通して見えてきた4つの課題

#### ①ウェルビーイングへの理解の不足

定義が難しく、  
我々自身のウェルビーイングが  
高まったかが曖昧になっていた



#### 改善施策

- ・座学を実施、明確な定義づけ  
学生がウェルビーイングは  
どうしたら高まるかを  
正確に理解することで  
活動をより有意義に

#### ②助成交通費の不足

新幹線代やレンタカー代など  
補助金を大きく上回る負担が  
生じていた  
(東京～福井 15,810円)



#### 改善施策

- ・助成交通費の増額  
補助金を増やすことで  
学生側の負担を減らし、  
多くの学生に参加してもらう

#### ③車移動が必須

自治体への移動の際に  
レンタカーを運転する  
数人のドライバーを確保する  
必要があった



#### 改善施策

- ・公共交通機関の利用や  
移動手段の手配  
ドライバーの有無に依存しない  
移動手段を確保することで  
どんな団体も参加可能になる

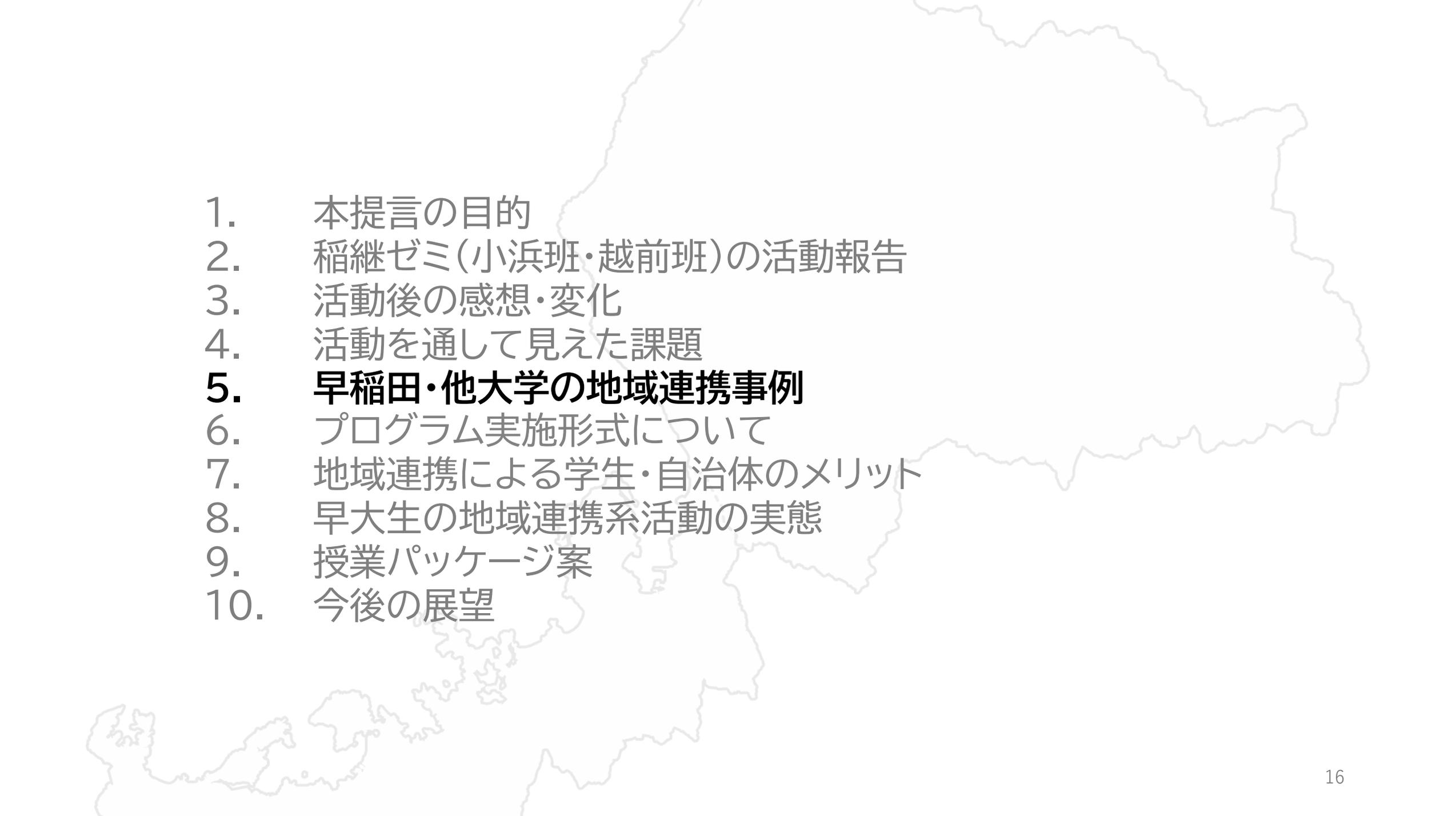
#### ④やり取りに関する負担

担当者とのやり取りにラグが  
生じることや、予定の決定に  
時間がかかることがあった



#### 改善施策

- ・担当者や予定の事前決定  
前もって決めておくことで  
スムーズにプロジェクトを  
進めることが可能に

- 
1. 本提言の目的
  2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告
  3. 活動後の感想・変化
  4. 活動を通して見えた課題
  5. **早稲田・他大学の地域連携事例**
  6. プログラム実施形式について
  7. 地域連携による学生・自治体のメリット
  8. 早大生の地域連携系活動の実態
  9. 授業パッケージ案
  10. 今後の展望

## 早稲田大学における地域連携事例

### ①ゼミ型



#### 政治経済学部 稲継ゼミ

「行政の諸活動を分析する」をテーマに各種フィールドワークや政策提言を行う

### ②授業型



この画像は著作権の関係により掲載できません。

#### 社会科学部 JA共済寄附講座 農とSDGsの実践(分析と検証)

現地の大学やJAと協力し、その地域の農とSDGsについて農家や行政等から聞き取り調査を行い、発表

### ③短期集中型



この画像は著作権の関係により掲載できません。

#### GCCオフィス 地域連携スタディツアー

学生が地域を訪れ住民や行政等との交流を通じ、その地域の課題解決方法を模索し発表

## 早稲田大学における地域連携事例

### ①ゼミ型

テーマ 専攻に依存  
人数 各学年最大15人程度  
費用 基本的に学生が負担  
移動 柔軟  
日程 柔軟  
期間 柔軟  
協力主体 ゼミのつながりに  
左右

### ②授業型

テーマ 授業ごとに設定可  
人数 最大40人程度※FW有  
費用 講座・寄付主体からの  
補助あり  
移動 レンタカー禁止  
日程 前年度に確定  
期間 半年・通年単位  
協力主体 幅広い

### ③短期集中型

テーマ 自由  
人数 最大10人程度  
費用 一部補助の場合も  
移動 レンタカー禁止  
日程 半年前ほどに確定  
期間 3日～2カ月  
協力主体 行政中心

## その他大学の地域連携事例

### ①ゼミ型

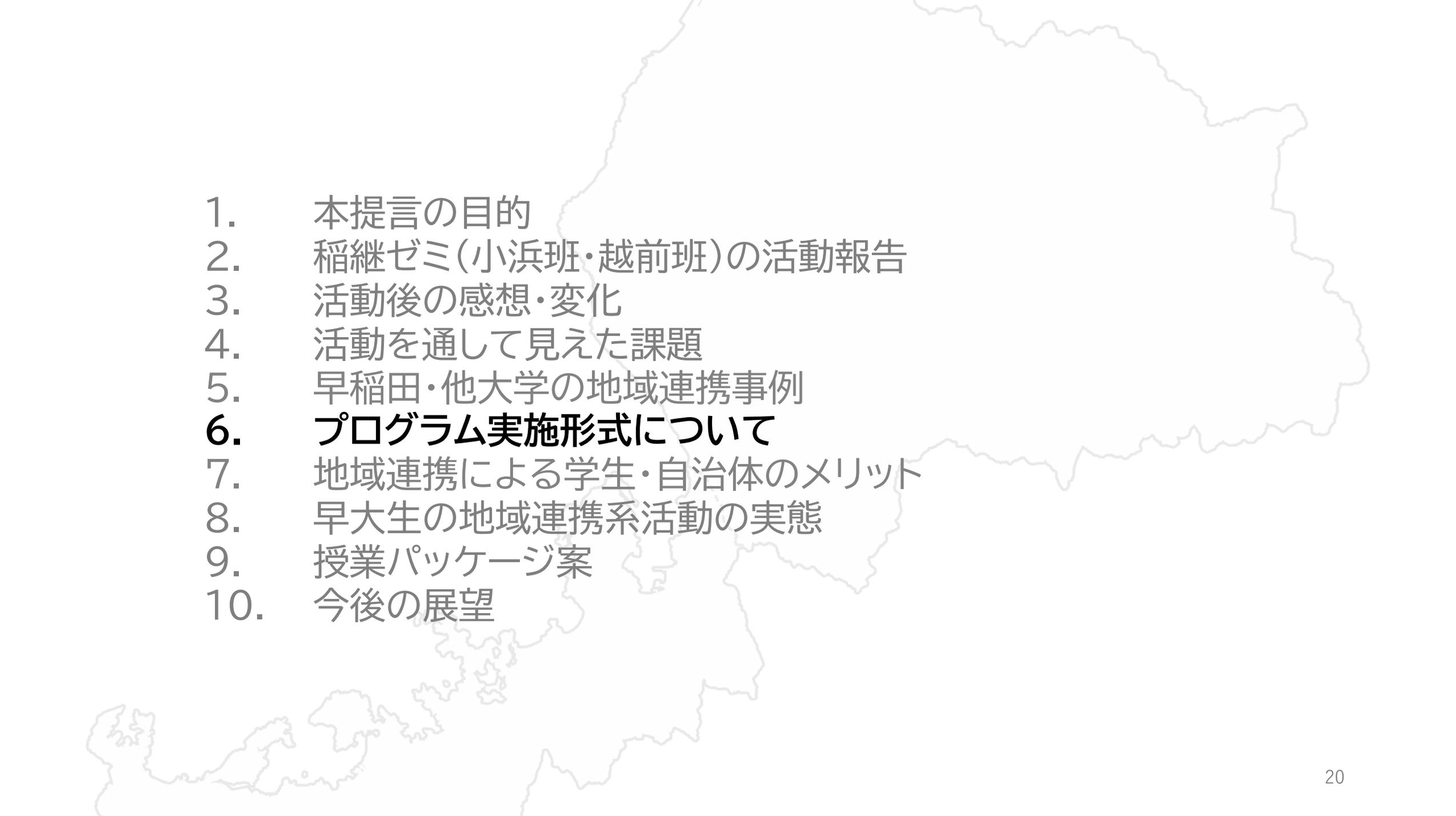
中央大学 経済学部 和田ゼミ 東京都八王子市 まちづくり提言  
立教大学 観光学部 西川ゼミ 埼玉県の観光施策提言

### ②授業型

同志社大学 プロジェクト科目  
地域課題を解決する新規事業開発～京丹後市での構想と実践～

### ③短期 集中型

明治大学文学部 PBL学習 神奈川県湯河原町での観光施策提言  
東京大学 体験活動プログラム

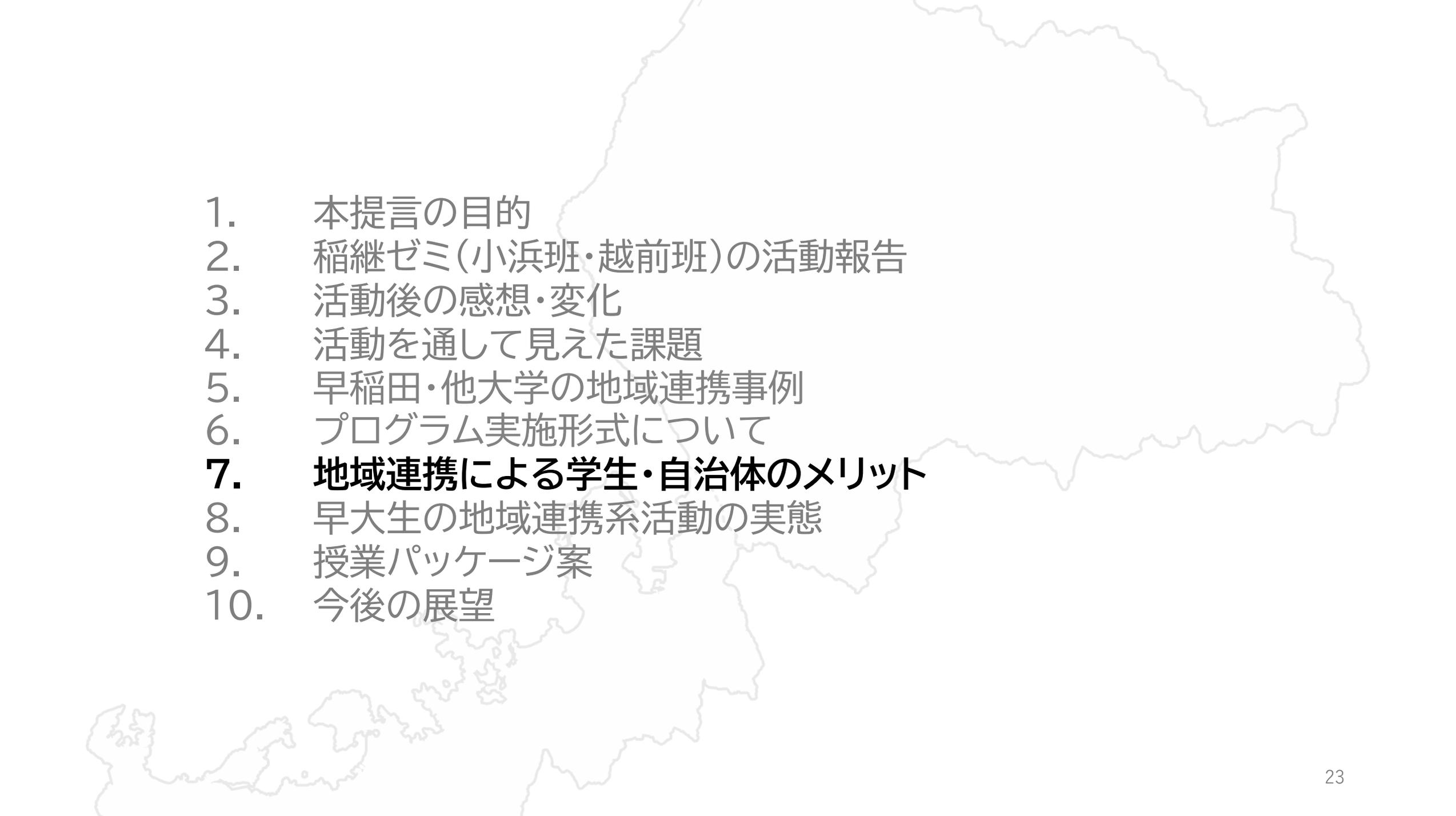
- 
1. 本提言の目的
  2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告
  3. 活動後の感想・変化
  4. 活動を通して見えた課題
  5. 早稲田・他大学の地域連携事例
  - 6. プログラム実施形式について**
  7. 地域連携による学生・自治体のメリット
  8. 早大生の地域連携系活動の実態
  9. 授業パッケージ案
  10. 今後の展望

## 6. プログラムの実施形式について

実施形式	概要	メリット	デメリット
①ゼミ型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由な期間で設定し、学習とFWを行うプログラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営がしやすい(スケジュールが柔軟で自治体との連絡も取りやすく、成績の制約もあまり受けない)</li> <li>・活動後も、ゼミとして関係性を維持できるため知見が次の代にたまっていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加学生の専攻分野や興味に偏りが生じる</li> <li>・ゼミへの参加が必要なため、プログラムに気軽に参加できない</li> <li>・活動を通じた、学生側のウェルビーイング向上への効果が薄い(元々知り合いのため、学生同士の繋がり創出に伸びしろがない)</li> </ul>
②授業型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期もしくは2学期を通じて、14回もしくは28回の講義とFWを行うプログラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻興味関心が異なる学生が参加することで幅広い視点からの政策提言が可能になる</li> <li>・大学側からのサポートが受けやすい(事務などの面において)</li> <li>・自治体側のPRになる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学に設置し、講師を用意する必要ある</li> <li>・授業期間を通じて学生が飛ぶ可能性がある</li> <li>・参加者が費用や期間のハードルを感じやすい</li> <li>・厳格にパッケージを用意する必要がある(自治体側の準備費用、成績手続きなど)</li> </ul>
③短期集中型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習と一度のFWを短い期間で行うプログラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体側の学生対応にかかる労力削減</li> <li>・計画から実行までのスピードが早い</li> <li>・やる気のある学生が集まりやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期間ゆえに成果物の質が低くなる</li> <li>・活動を通じた学生側のウェルビーイングの向上への効果が薄い(活動を通じた学生の能力向上や、地域・学生同士の繋がり創出へ効果が薄い)</li> </ul>

## 実施形式の判断基準

- **地域、学生ともに実りがあるのか**
- やる気のある学生を一定数確保できるか
- 交通手段に問題はないか
- 日程、費用の調整が円滑に進むか
- 自治体の業務に支障がないか

- 
1. 本提言の目的
  2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告
  3. 活動後の感想・変化
  4. 活動を通して見えた課題
  5. 早稲田・他大学の地域連携事例
  6. プログラム実施形式について
  - 7. 地域連携による学生・自治体のメリット**
  8. 早大生の地域連携系活動の実態
  9. 授業パッケージ案
  10. 今後の展望

## 学生側の地域連携のメリット: 先行研究から

自己効力感



社会・自己  
認識



課題対応力



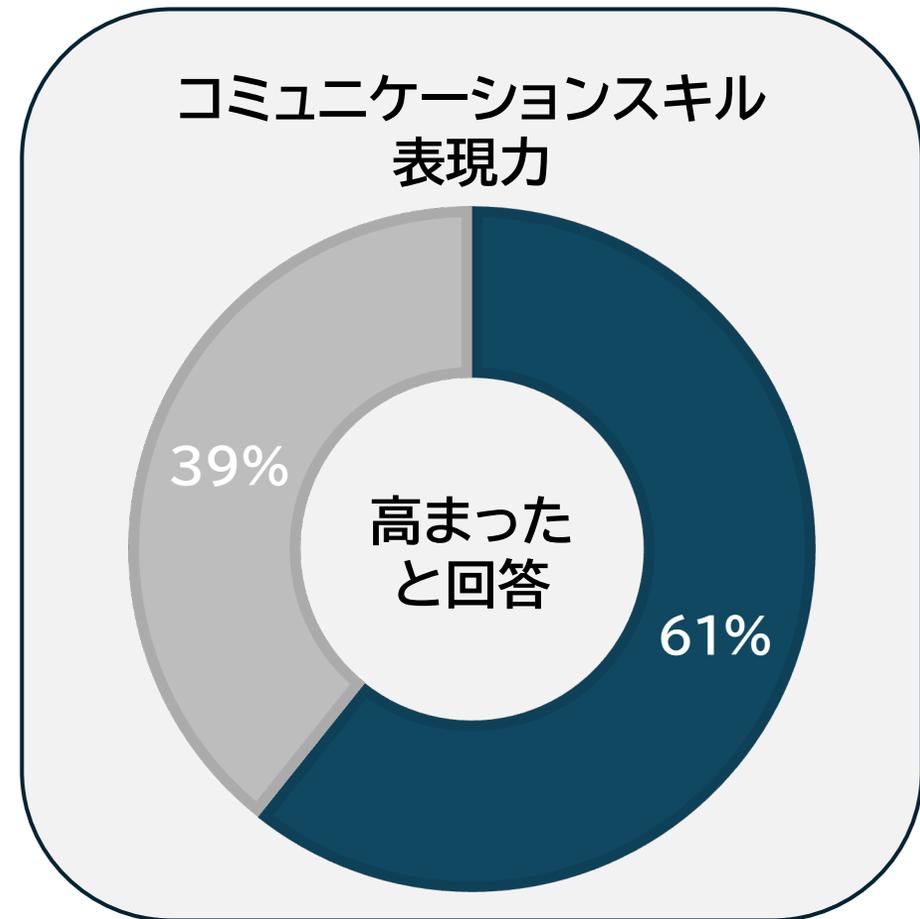
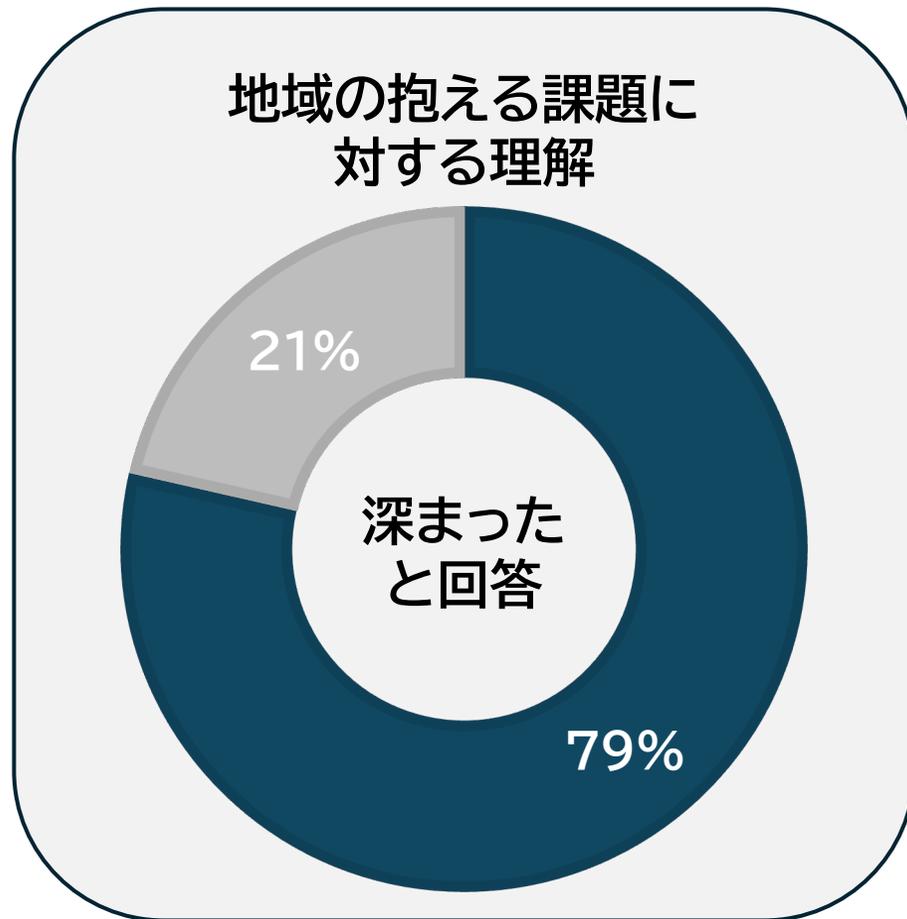
学業に関わ  
る能力



曾(2022)によるアンケート調査の結果

加藤(2020;2023)では、人間力や創造性、計画力や実行性などを評価項目とした自己評価アンケートの平均値が地域連携活動前後で向上

## 学生側の地域連携のメリット: アンケート結果から



その他のメリット

「地域の歴史・文化・伝統に対する理解」「リーダーシップ力」の向上  
地方創生・まちづくりに関する仕事に興味を持つなど、キャリア形成にも影響

## 自治体・地域における地域連携のメリット: 先行研究から

地域の  
再発見効果



誇りの滋養  
効果



知識移転  
効果



地域の変容  
を促進



しがらみ  
のない  
立場からの  
問題解決



地域再生  
主体の形成



敷田(2009);田中(2021)による6つの「よそ者」効果

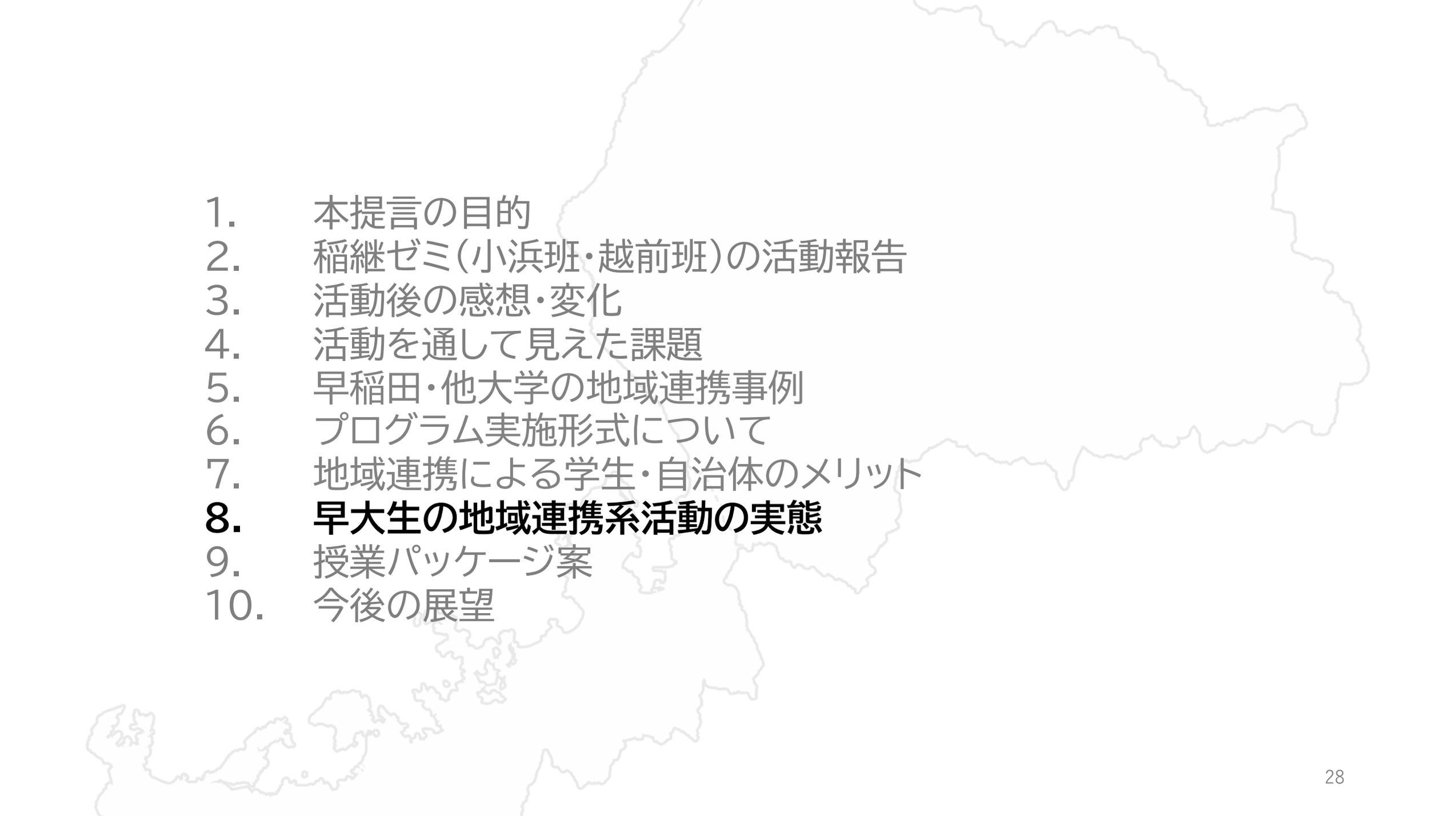
## 自治体・地域における地域連携のメリット:「学生」の視点から

「若者の力」の活用



生涯に亘る  
地域のファン・関係人口の  
創出

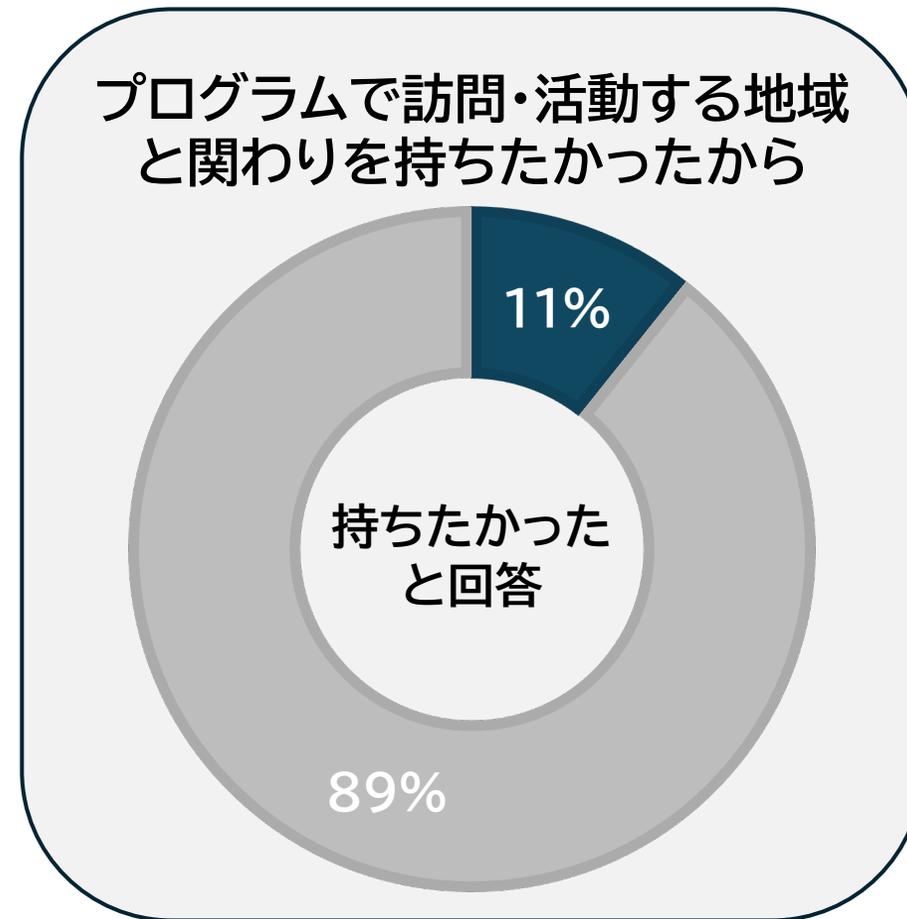
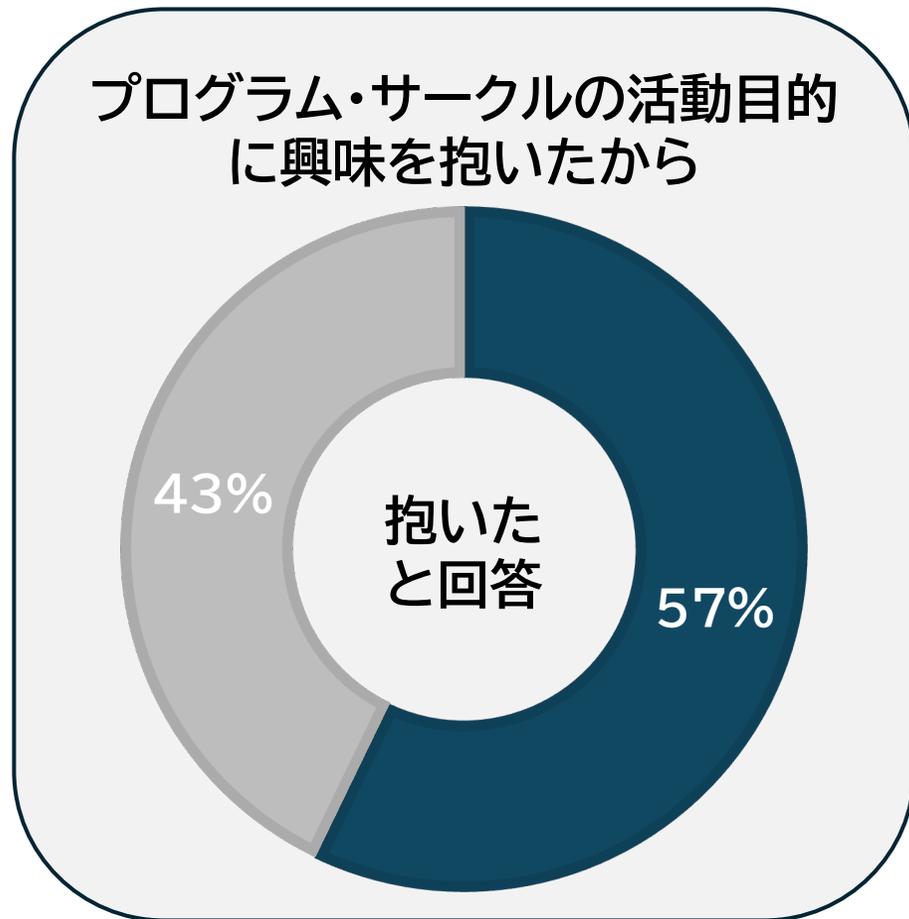


- 
1. 本提言の目的
  2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告
  3. 活動後の感想・変化
  4. 活動を通して見えた課題
  5. 早稲田・他大学の地域連携事例
  6. プログラム実施形式について
  7. 地域連携による学生・自治体のメリット
  - 8. 早大生の地域連携系活動の実態**
  9. 授業パッケージ案
  10. 今後の展望

## 早大生の地域連携系活動の実態: アンケート調査から

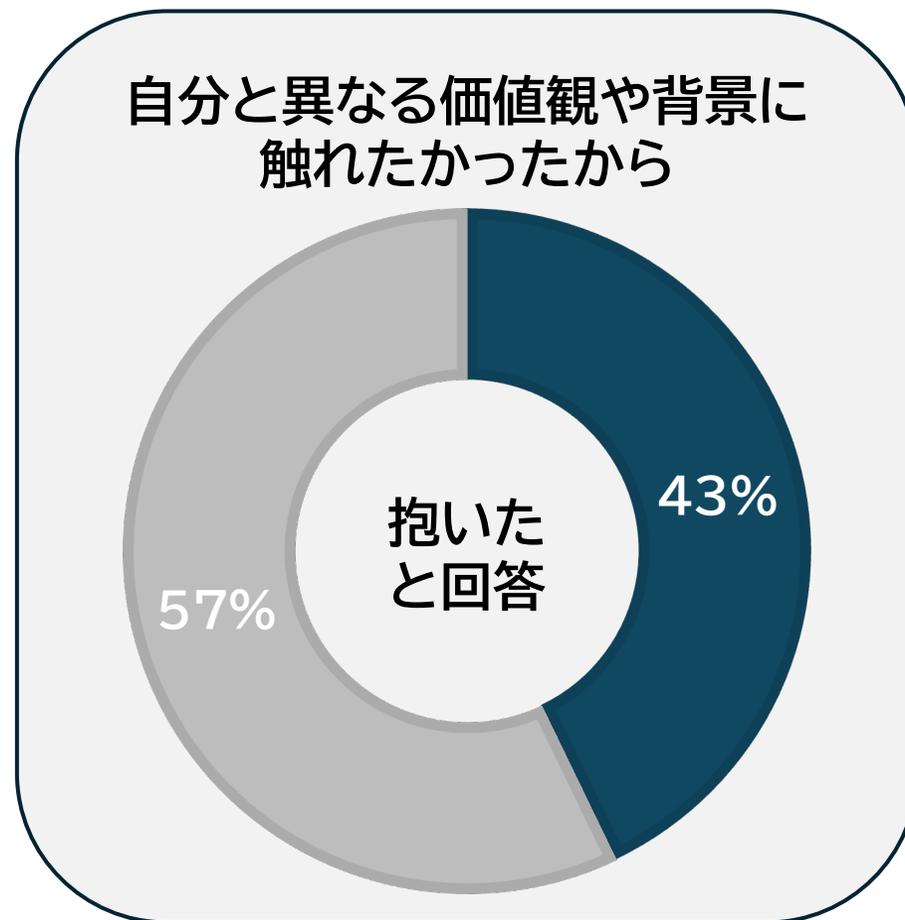
実施期間	2025年2月4日～2025年2月28日
対象	早稲田大学に所属する学生(学部・大学院)
回答人数	70人
回答方法	インターネット(Googleフォーム)
目的	早稲田大学に所属する学生が、地域連携系の活動や授業に対してどのような意識を抱いているのかを調査する。具体的には、参加経験者には参加した理由や障壁となった点、参加後の感想や身に付いたこと、地域との関わりについて尋ねた。参加経験のない者には、参加しない理由や障壁について尋ねた。
その他	回答受付前に福井県・飛田様及び担当教授稲継により承認を受けています。

## なぜ学生は地域連携活動に参加するのか(1)



学生は「地域」よりも「内容・テーマ」を重視する傾向

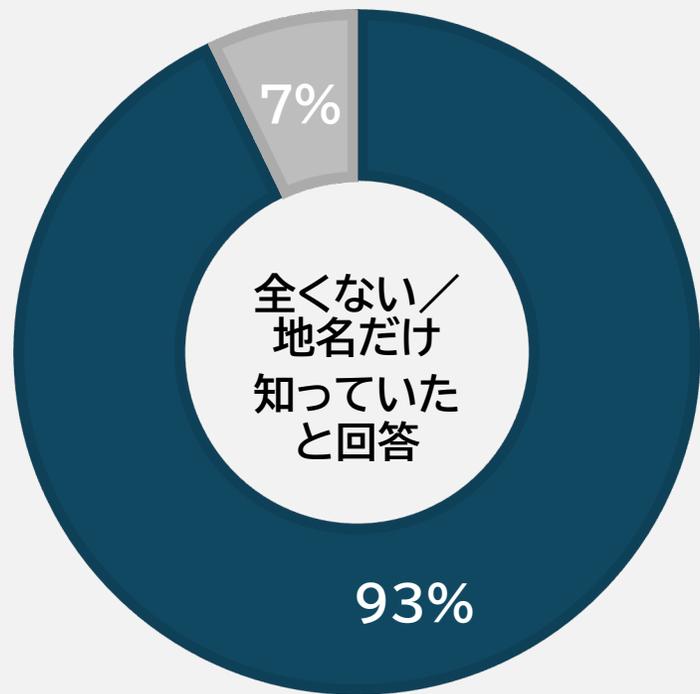
## なぜ学生は地域連携活動に参加するのか(2)



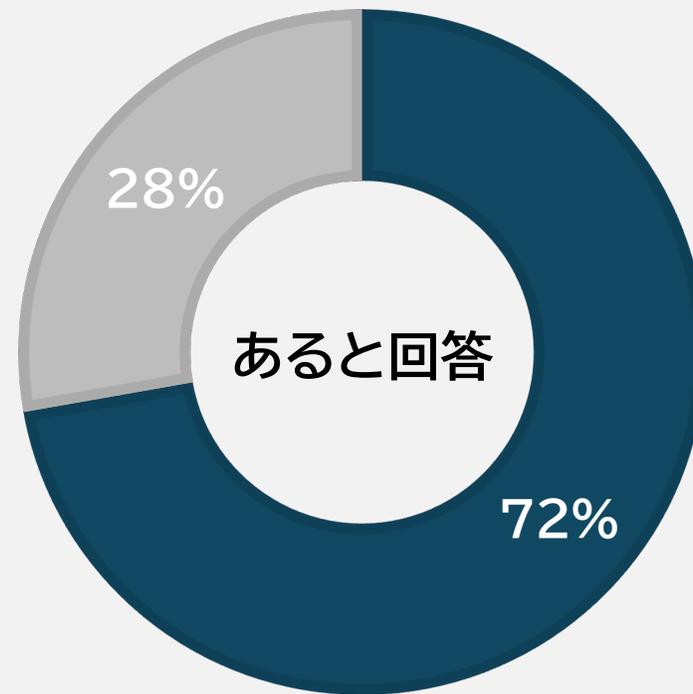
授業や活動において「刺激」や「つながり」を求める傾向

## 訪問先地域との事前／事後的なつながりの有無

参加する前に、その地域との  
関わりはありましたか

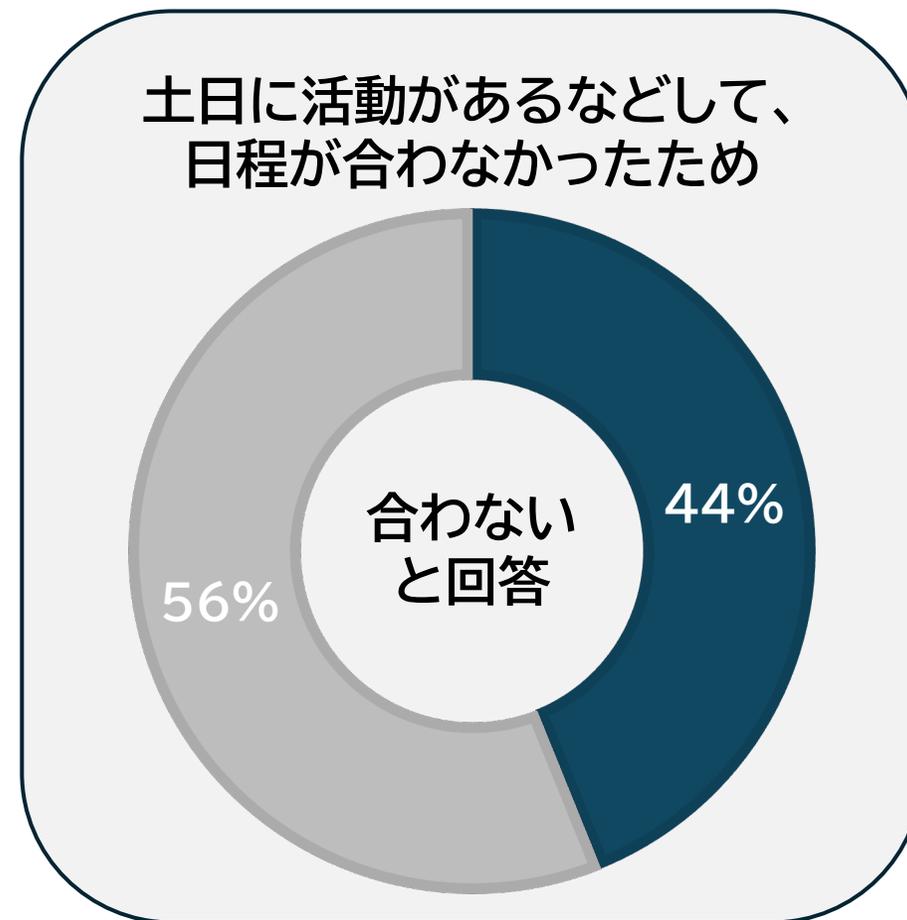
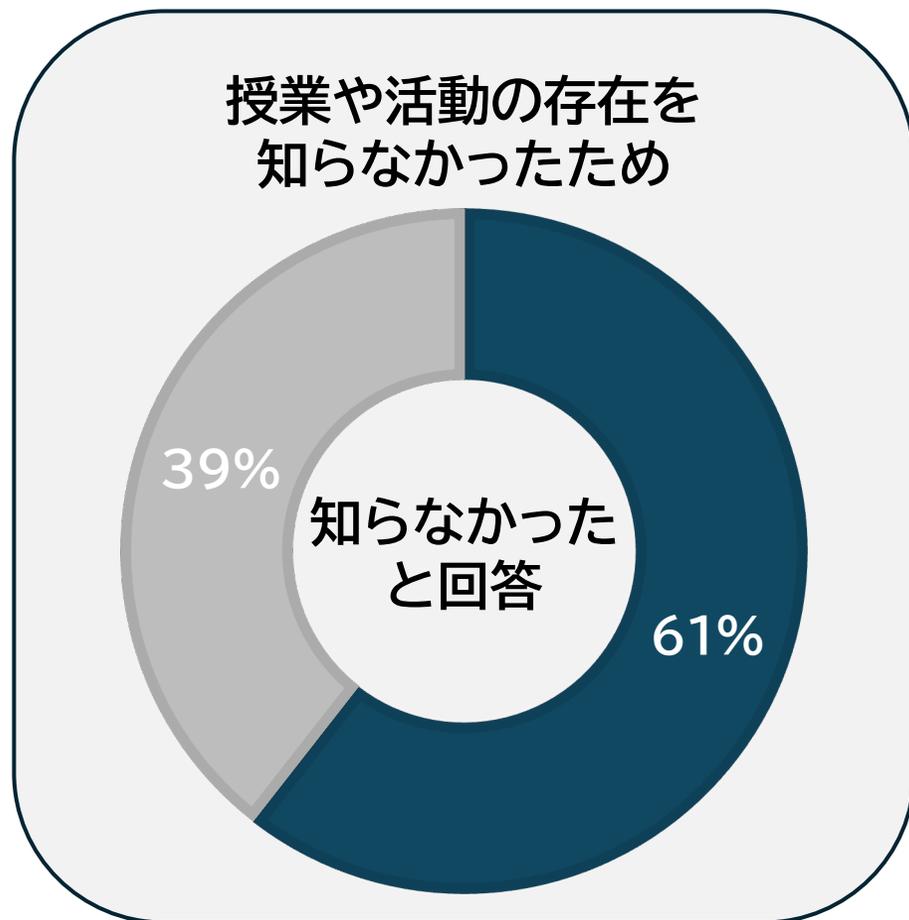


活動で訪れた場所とは今でも  
関わりがありますか

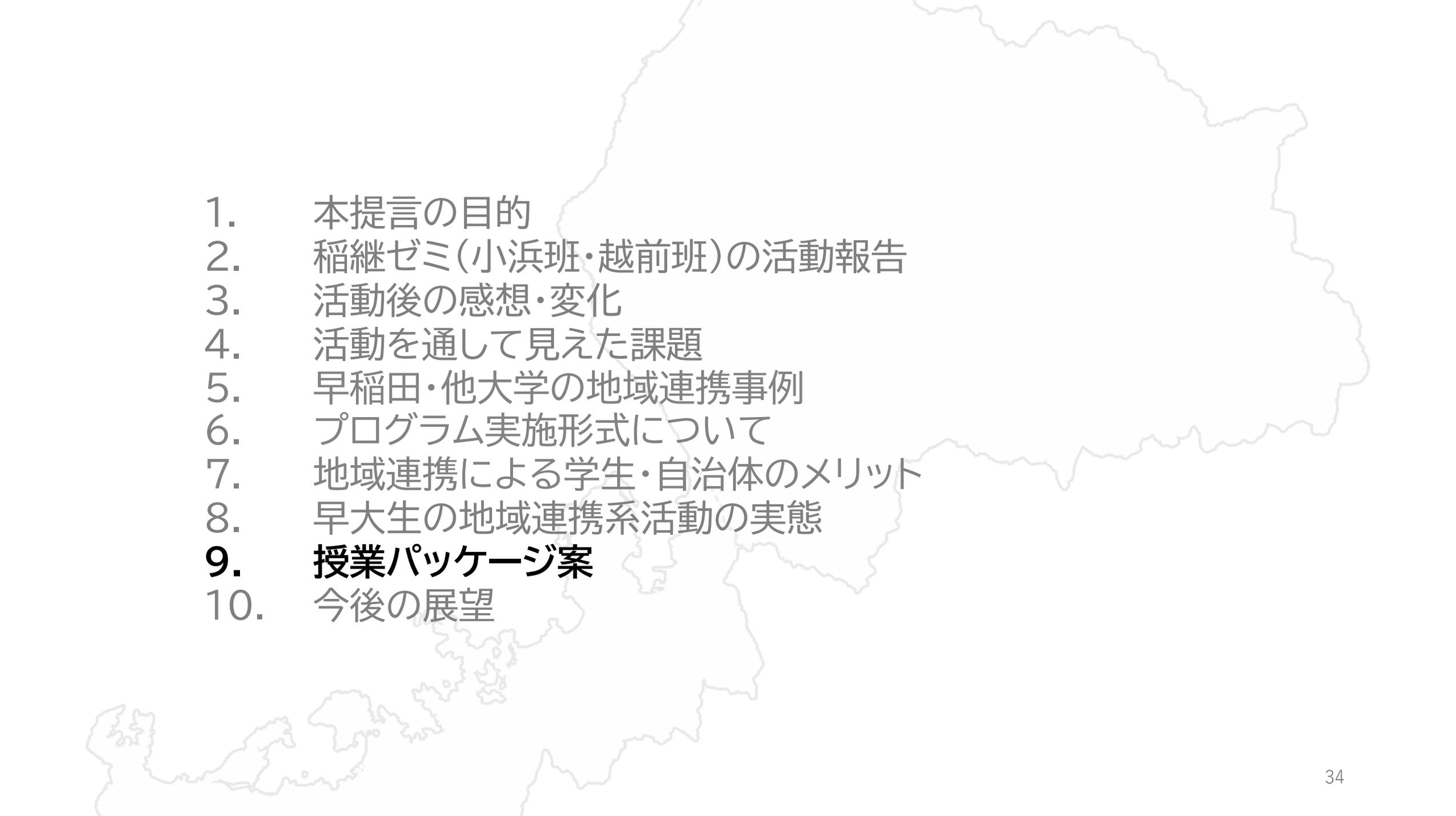


未知の地域と出会い、地域のファンへと変貌していく

## なぜ活動に参加しないのか？—参加経験のない学生の声



地域連携系活動に対する「潜在的な需要」の存在

- 
1. 本提言の目的
  2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告
  3. 活動後の感想・変化
  4. 活動を通して見えた課題
  5. 早稲田・他大学の地域連携事例
  6. プログラム実施形式について
  7. 地域連携による学生・自治体のメリット
  8. 早大生の地域連携系活動の実態
  9. **授業パッケージ案**
  10. 今後の展望

## 9. 授業パッケージ案

授業で行うのは、地域課題の解決案の提示  
この過程で、住民と参加者のウェルビーイングの向上を図る

### ・授業内容の要約(例)

目的	地域課題の解決、参加学生のつながり・能力の強化 (住民・参加者のウェルビーイングの向上)
内容	現地へのフィールドワーク・ヒアリングの実施 地域が抱える課題を解決する政策を提案
参加人数	30名程度
形式	全学オープン型(どの専攻からも参加可能) 状況に応じて志望理由書等での選抜
成績評価	平常点60%, 最終プレゼンテーション40%
交通手段	福井まで:各自福井駅までの移動を補助 福井県内:貸切バスによる移動
連携自治体	2~3の自治体と連携 各自治体10~15名で2つの班に分かれる

## 9. 授業パッケージ案

# グループワークを中心とした授業設計 訪問先の方とのやり取りの回数を増やすことで、実現可能性を高める

### ・カリキュラム(例)

回数	内容
1	イントロダクション(授業の説明やグループ分け)
2	福井や担当自治体に関する学習(課題など)
3	ウェルビーイングに関する学習(定義など):ゲストスピーカー
4	政策提言やプレゼンテーションに関する学習(政策提言の行い方や発表の仕方など)
5	グループワーク(訪問する自治体の現状分析・課題を考える)
6	フィールドワーク1回目(5月下旬)
7	フィールドワーク振り返り(FWをもとにした課題の修正)
8~11	中間報告・2回目FWに向けた準備(課題に対する施策の検討、必要があればオンラインでヒアリングを実施)
12	中間報告(自治体側への施策共有と意見交換)
13	中間報告振り返り(意見交換をもとに施策の修正を行い、2回目の自治体訪問に備える)
14~15	フィールドワーク2回目(1泊2日、8月上旬)
16	フィールドワーク振り返り
17~19	報告準備
20	最終報告前の確認:現地担当者へのヒアリング調査(オンライン)
21	ヒアリング調査の振り返り
22	ゲストスピーカー(ウェルビーイングについての講演)
23~24	報告準備
25	授業内発表・意見交換会
26	最終報告へ向けた準備
27	福井での最終発表会(1月上旬)
28	授業の統括・まとめ

内容	回数(28)
座学・その他	6
グループワーク	17
現地訪問	3
報告・発表	2

# ウェルビーイング指標から地域の課題を読み解き、 学んだ解決の手法に落とし込む

### ・授業概要(例)

この授業では、「ウェルビーイングからみる地域課題解決」をテーマに、福井県を舞台にしたフィールドワークやグループワークを通じて、地域住民・受講生双方の幸せ実感(ウェルビーイング)を向上させながら、地域の抱える課題を解決する政策を提案します。本年は、福井県の〇〇市と〇〇〇市を訪れ、現地の魅力や課題に触れながら、地域の様々なアクターと協力して、ウェルビーイングの観点から地域の課題解決に繋がる政策を考えていきます。

福井県は、幸せ実感(ウェルビーイング)社会の実現へ向けた多様な施策を展開しており、数多くの調査において幸福度日本一を獲得しています。本講義では、そんな福井県のウェルビーイング指標を「手掛かり」として、地域の抱える課題を解決することにより、住民の幸せ実感(ウェルビーイング)を高めることを目標とします。

また、本講義ではグループで協力をしながら、課題解決のための政策立案の過程を実践的に学びます。それにより受講生間の「紐帯」を形成し、また各人の「能力」を向上させることで、受講生の幸せ実感(ウェルビーイング)の向上も併せて図ります。

# グループワークを中心とした授業設計

### 授業内容のポイント

- ・政策提言を正確に、そしてスムーズに行うための事前学習の徹底

1	イントロダクション(授業の説明やグループ分け)
2	福井や担当自治体に関する学習(課題など)
3	ウェルビーイングに関する学習(定義など):ゲストスピーカー
4	政策提言やプレゼンテーションに関する学習(政策提言の行い方や発表の仕方など)

- ・貴重なフィールドワークを無駄にしないために、事前学習・振り返りを重要視

5	グループワーク(訪問する自治体の現状分析・課題を考える)
6	フィールドワーク1回目(5月下旬)
7	フィールドワーク振り返り(FWをもとにした課題の修正)
8~11	中間報告・2回目FWに向けた準備(課題に対する施策の検討、必要があればオンラインでヒアリングを実施)
12	中間報告(自治体側への施策共有と意見交換)
13	中間報告振り返り(意見交換をもとに施策の修正を行い、2回目の自治体訪問に備える)
14~15	フィールドワーク2回目(1泊2日、8月上旬)
16	フィールドワーク振り返り

## 9. 授業パッケージ案

# ウェルビーイング指標から地域の課題を読み解き、 学んだ解決の手法に落とし込む

### 授業概要(例)

- ・テーマは「ウェルビーイングからみる地域課題解決」
- ・**福井県のウェルビーイング指標を「手掛かり」として**、地域の抱える課題を解決することにより、住民の幸せ実感(ウェルビーイング)を高めることを目標とする
- ・課題解決のための政策立案の過程を実践的に学ぶ
- ・グループでの協力により受講生間の「紐帯」の形成し、また各人の「能力」を向上させることで、受講生の幸せ実感(ウェルビーイング)の向上も図る

## 9. 授業パッケージ案

# 参加学生の取り組むテーマを福井県の掲げる 地域プランに沿ったものにすることで、県が取り組むインセンティブも担保。

### 連携自治体のテーマ設定(例)

坂井地域： 食と農のプラットフォーム(人材育成・スマート農業など)

奥越地域： 農水林資源の活性化と6次産業化による「にぎわいと活力の里地里山ビジネスエリア」

丹南地域： 伝統と革新が融合する最先端のものづくりエリア、行き交う歴史や自然が魅力の街道新交流エリア

嶺南地域： 文化的・健康的に過ごせるくらしの先進地「WAKASAリフレッシュエリア」

丹南地域

【丹南地域の将来イメージ (2040年)】



- ・越前漆器、越前和紙、越前打刃物、越前焼、越前箆笥の5つの伝統工芸や眼鏡・繊維など長い歴史を有する地場産業と電子・化学等ハイテク産業が集積し、**伝統と革新が融合する最先端のものづくりエリア**
- ・高い技術を有する地場産業や先端技術産業、豊かな自然を活かした農林水産業などに魅力を感じて集まった移住者、女性、外国人など**様々な人たちが共生しチャレンジするエリア**
- ・越前海岸における越前水仙などの景観、生き物に配慮した環境保全型農業の水田地帯、北国街道の今庄宿や鉄道遺産など、**行き交う歴史や自然が魅力の街道新交流エリア**
- ・伝統的民家や農家民宿などに滞在し、伝統工芸・クラフト体験や農業体験など地域の営みを楽しむ**新たな「しごととくらし」の観光エリア**

嶺南地域

【嶺南地域の将来イメージ (2040年)】



- ・京都・大阪との近接性、自然や歴史・文化・食の魅力、安心の子育て環境を活かし、嶺南から関西に通勤し、創造的に働きながら文化的・健康的に過ごせる**くらしの先進地「WAKASAリフレッシュエリア」**
- ・スマートエリアの整備、デコミッションング(廃炉)ビジネスの育成、新たな試験研究炉を核とした研究・人材育成の拠点化や産業創出により、**人や企業が集まる嶺南Eコーストエリア**
- ・新幹線や敦賀港のクルーズ船からの外国人が三方五湖や鯖街道、人道の港、漁家民宿など**嶺南の自然と歴史を楽しむインバウンドリゾートエリア**
- ・人々の手で守り継承されてきた伝統芸能・祭り、寺社仏閣、食文化などを学び、交流する**伝統文化を学び体感するエリア**

【授業目標】 地域課題解決に取り組むことで、  
学生・地域住民「双方」のウェルビーイング向上につなげる。

## 想定される**学生側**のウェルビーイング向上

### 客観的指標

#### ①つながり (社会的紐帯)



- ・グループメンバーとの関係の深まり
- ・地域との新たな関係の構築、そして授業終了後も維持

#### ②能力 (健康・教育・職業)



- ・分析、議論、発表に関するスキルの向上

### 主観的指標

#### ③主観的指標



- ・自分が地域に貢献できていると感じることによる自己肯定感の向上

## 9. 授業パッケージ案

【授業目標】 地域課題解決に取り組むことで、  
学生・地域住民「双方」のウェルビーイング向上につなげる。

### 想定される**住民側**のウェルビーイング向上

#### 客観的指標

##### ①つながり (社会的紐帯)



- ・都市部の若者と関わり  
新しい視野や繋がりを獲得

##### ②能力 (健康・教育・職業)



- ・「よそ者」に  
伝える、教える力が向上

#### 主観的指標

##### ③主観的指標



- ・今までの活動を共有できる  
舞台の実感
- ・ネガティブ課題の解決による  
幸福感の向上

## 9. 授業パッケージ案

学生が地域に対して継続的に関わることが期待できる  
学生との出会いは、新たな発見を生み、舞台を作り出す

### 授業で地域と関わる意義

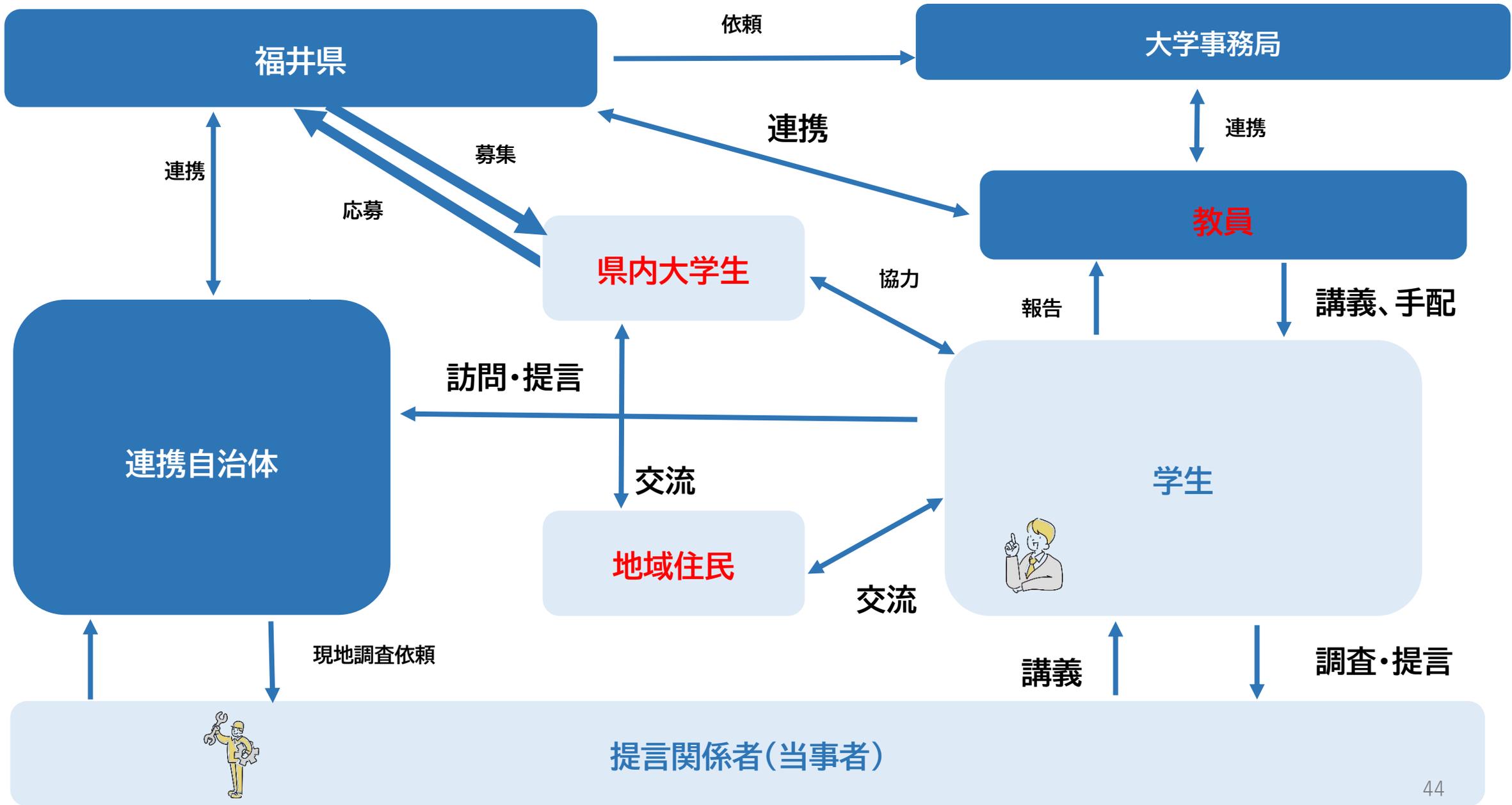
#### 地域

- ・学生と意見交換をする機会が多い
  - 自らの地域の魅力を「教える」舞台が整う + 多様な学生との交流機会の創出
- ・大学のプログラムで来訪する安心感
  - 受け入れのハードルが低くなる
- ・大学と連携した実績を創ることができる
  - 公的な発信性・社会貢献性の担保
- ・学生が地域の「ファン」になる
  - 将来的な関係人口の確保

#### 学生

- ・新しい地域と関わるきっかけが生まれる
  - 視野が広がる
- ・きちんと地域に向き合うことで、より自分ごとに出来る
- ・地域連携系サークルに加入するよりも、参加のハードルが低い

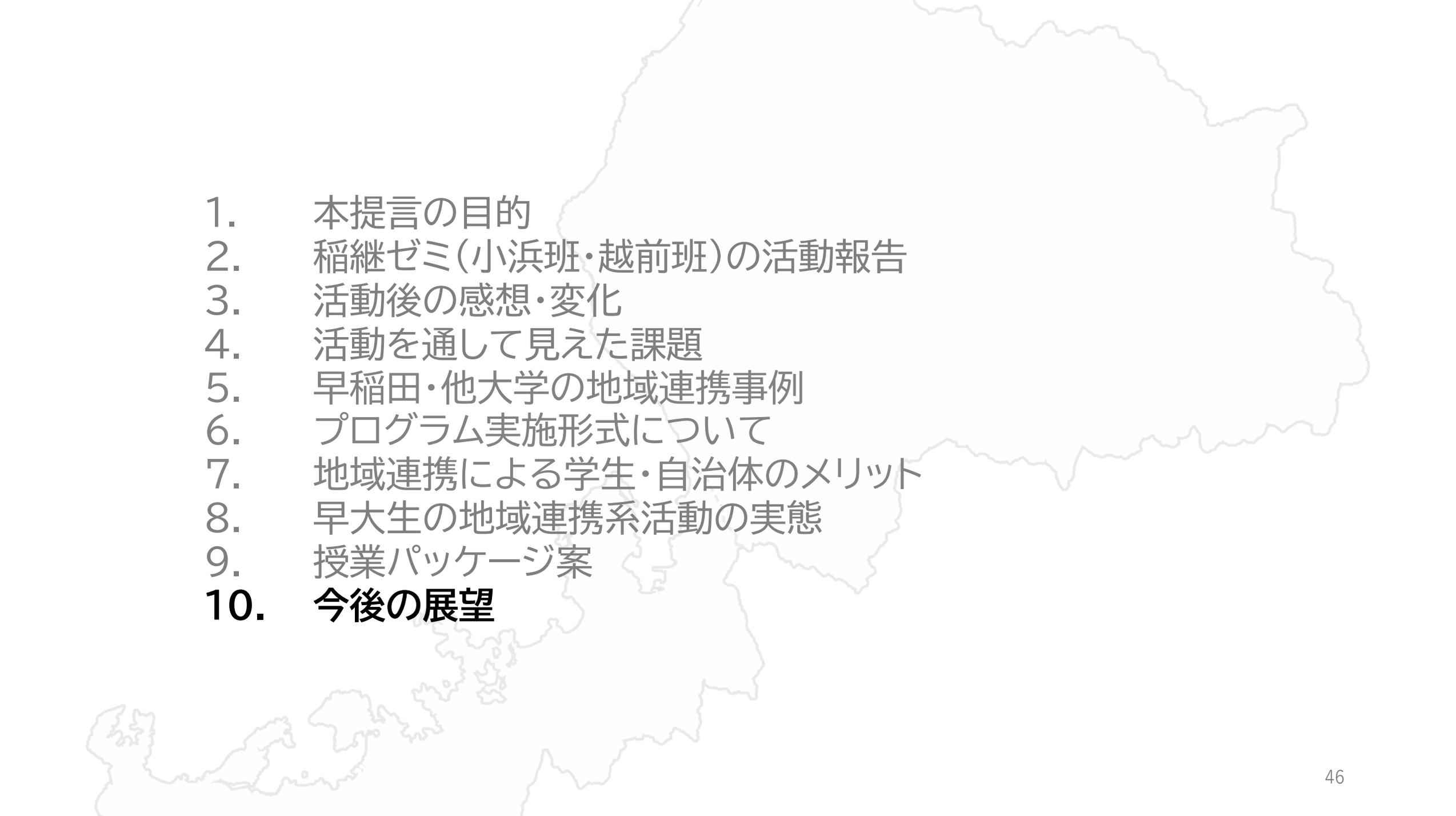
# 9. 授業パッケージ案



福井県で生まれた「つながり」を卒業後も維持  
新たな価値の創出へ

実習に参加した学生によるコミュニティの形成

1. 授業によるウェルビーイング向上効果の連続的測定
2. 学生間につながり(社会的紐帯)の維持
3. 福井県との継続的なつながり⇒関係人口化
4. それぞれの進路で福井県で学んだウェルビーイング向上の取り組みを実践  
⇒ 将来的な福井型ウェルビーイングの波及

- 
1. 本提言の目的
  2. 稲継ゼミ(小浜班・越前班)の活動報告
  3. 活動後の感想・変化
  4. 活動を通して見えた課題
  5. 早稲田・他大学の地域連携事例
  6. プログラム実施形式について
  7. 地域連携による学生・自治体のメリット
  8. 早大生の地域連携系活動の実態
  9. 授業パッケージ案
  - 10. 今後の展望**

### ご提案した授業パッケージを導入する上での4つの課題

#### ①連携先大学の 選定・契約

授業パッケージの導入が可能な  
大学は実際あるのか、  
また、大学側との契約の際には  
条件面を交渉する必要があるなど、  
まだ見通せない部分が多い



#### ②授業の広報面

授業パッケージを大学側に導入後、  
その授業にどのように学生を  
呼び込むかという広報面の施策等に  
関しては今後検討する必要がある



#### ③基礎自治体の 理解獲得

大学生と連携してプロジェクトを  
進めていただける自治体を探し、  
訪問・ヒアリング・発表等に時間を  
割いていただくことにご理解をいた  
だき、  
ご協力いただく必要がある



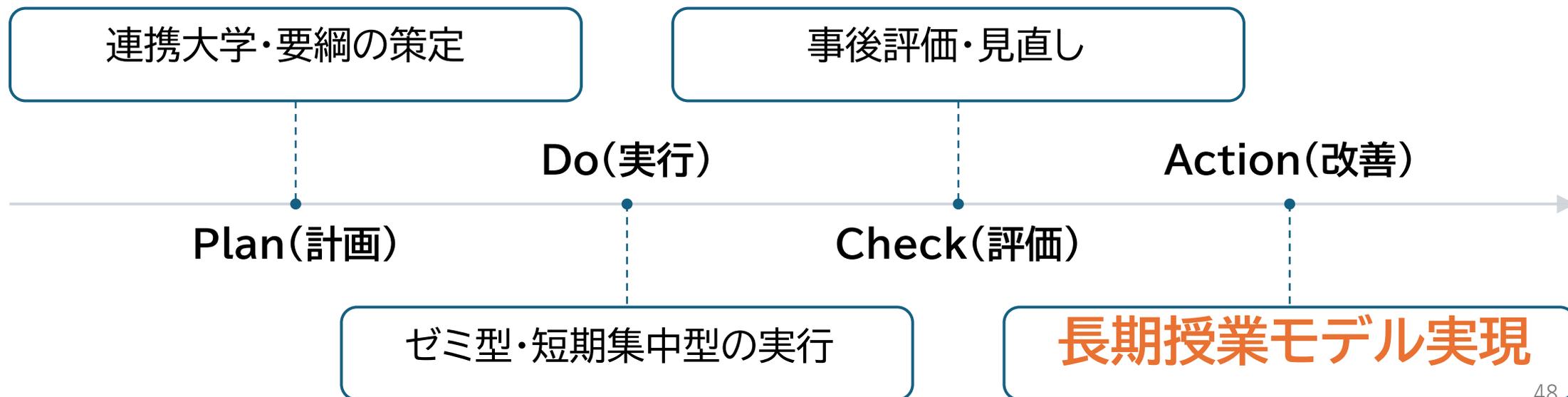
#### ④地域住民の 理解獲得

大学生が施設の訪問を  
希望した際などに  
地域住民の方のご理解をいただき、  
訪問・ヒアリングをさせていただく  
必要がある



### 授業型の実現に向けたPDCAサイクル

- 授業型の実施には長期の準備期間と費用が必要となる
- ゼミ型、短期集中型による実証実験を続け、地域・学生にとって最適なモデルへの改良を重ねていく



# 参考文献

## ■書籍・論文

加藤基樹(2020)「大学生の地域連携活動の効果とその測定に関する研究」『日本地域学会第57回(2020年)年次大会学術発表論文集』

加藤基樹(2023)「大学における「農に関わる地域連携科目」履修の効果分析」『共済総研レポート』186、pp.46-55.

敷田麻美(2009)「よそ者と地域づくりにおけるその役割にかんする研究」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』9、pp.79-100.

曾愉茜(2022)「大学生による地域連携活動の学習効果に関する研究」『同志社政策科学研究』23 (2), 49-62

田中輝美(2021)『関係人口の社会学:人口減少時代の地域再生』大阪大学出版会。

山田鋭夫(2025)『ゆたかさをどう測るか:ウェルビーイングの経済学』筑摩書房。

## ■ウェブサイト

埼玉県「立教大学観光学部の学生が知事に政策提言 -埼玉県の観光の未来を描く-」[https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/260609/r6seisakuteigen\\_r.pdf](https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/260609/r6seisakuteigen_r.pdf)

中央大学「【ゼミ】経済学部 和田光平ゼミが、八王子市主催「多摩ニュータウンまちづくりワークショップ」に参加し、地域の課題解決策について発表しました。」<https://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/economics/news/2018/04/14033/>

同志社大学「同志社大学 シラバス」<https://syllabus.doshisha.ac.jp/html/2024/6600/16600100707.html>

東京大学「体験活動プログラム Hands-on Activities」<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html#1>

福井県(2020)「福井県長期ビジョン ~いっしょに創ろう ふくいの未来2040~」[https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/vision2019/top\\_d/fil/201014vision\\_all.pdf](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/vision2019/top_d/fil/201014vision_all.pdf)

三重大学「本学専攻生と早稲田大学生の連携講義で実施した柑橘農家への聞き取り調査(報告)」<https://www.mrpco.mie-u.ac.jp/cat-news/topics/56911sdgs38-ja.html>

明治大学「【文学部独自のキャリア支援】湯河原町でPBLを実施しました」<https://www.meiji.ac.jp/bungaku/info/2024/mkmht0000022o89i.html?channel=main>

早稲田大学 Global Citizenship Center「地域連携スタディツアー2024年度春編 参加者募集！」<https://www.waseda.jp/inst/sr/news/2024/10/07/4496/>

早稲田大学「山形県寒河江市&早稲田大学 地域連携スタディツアー2024」[https://www.instagram.com/p/DBInfkqSevv/?utm\\_source=ig\\_web\\_copy\\_link&igsh=MzRlODBiNWFlZA==](https://www.instagram.com/p/DBInfkqSevv/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzRlODBiNWFlZA==)

ウェブサイトの最終閲覧日は全て2025年3月17日。